

# 日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 95  
平成30年

平成30年度 日本庭園学会

関西大会のご案内

発行 日本庭園学会(会長 佐々木邦博)  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
東京農業大学 地域環境科学部  
造園科学科 庭園文化研究室内  
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)  
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

## 平成30年度 日本庭園学会 関西大会のご案内

平成30年度の関西大会は、平成30年11月3日(土)、4日(日)の2日間にわたって、奈良市内を会場として行います。

1日目の現地検討会では、特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、名勝旧大乘院庭園、奈良公園内高畑町裁判所跡地の庭園遺構を訪ねます。

特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園では、発掘された奈良時代前期の庭園遺構が露出展示されてきましたが、公開から30年を経過し、現在再整備事業が行われています。今回はその遺構保存修理現場において、事業内容をご説明いただき、庭園遺構の露出展示のありかたに関して討議いたします。

名勝旧大乘院庭園においては、発掘調査成果に基づいて保存整備事業が行われ、またヘリテージセンターである大乘院庭園文化館が整備され長年親しまれてきました。この庭園においても整備後、長年の経過によって再整備が必要となり、橋の架け替え等が行われています。発掘調査から保存整備、さらに再整備へと至った事業の流れをご説明いただき、庭園の再整備のありかた等について討議します。

奈良公園内高畑町裁判所跡地の庭園遺構は、近年新たに確認された近代庭園で、興福寺子院松林院の跡地にあたり、大正年間に山口家の南都別邸が営まれました。豪壮な滝を有した庭園遺構は、本年度から修復・整備が行われる予定です。その事業内容をご説明いただきながら、庭園内を見学いたします。

2日目は研究発表会・公開シンポジウムを行ないません。シンポジウムは、1日目の見学会を踏まえ、奈良の庭園をめぐる2つの基調報告を頂き、議論していきます。一つ目は、特に特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園に焦点をあて、露出展示された庭園遺構の劣化に伴う再整備のあり方について議論します。発掘された庭園遺構を埋戻し保存するのではなく、保存処理を施したうえで露出展示をおこなうという庭園の保存整備の事例は全国に見られますが、特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園はそのさきがけとなった事例です。現在行われつつある再整備事業を踏まえ、今後事例が増えるであろう庭園の再整備のあり方について議論していきます。

奈良公園内高畑町裁判所跡地の庭園遺構のように、奈良市内にはあまりその存在が知られていない庭園が数多くあります。そこで二つ目は、近年奈良市によって行われた庭園総合調査の成果を速報としてご報告いただき、奈良の庭園文化を再検討していきたいと思っております。

### <問い合わせ>

宮内泰之(日本庭園学会 総務担当)

電話: 042-376-8602 メール: [miya@keisen.ac.jp](mailto:miya@keisen.ac.jp)

平成30年度 日本庭園学会 関西大会  
開催年月日:平成30年11月3日(土)、4日(日)

第1日目(11/3 土) 現地検討会

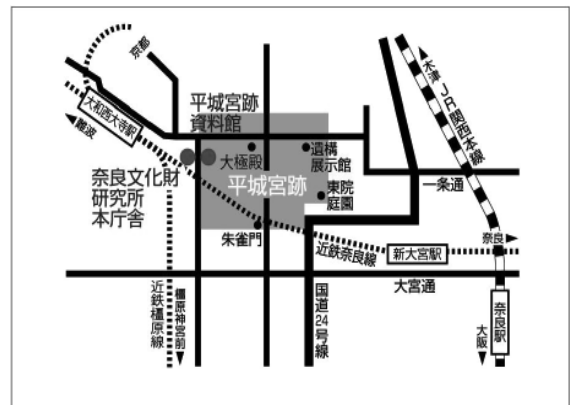
9:50 受付開始 特別史跡及び特別名勝平城京左京  
三条二坊宮跡庭園入口前  
【最寄駅 近鉄奈良線 新大宮駅 下車徒歩10分】



- 10:00 宮跡庭園 見学開始  
案内:小林広育氏/奈良市教育委員会文化財課記念物係ほか
- 11:30 宮跡庭園 見学終了  
※各自移動、昼食
- 12:50 再集合 名勝旧大乘院庭園文化館 入口  
【最寄り駅 近鉄奈良線奈良駅下車 徒歩15分又は、市内循環バス乗車、福智院町又は奈良ホテル前バス停下車 徒歩1分】
- 13:00 名勝旧大乘院庭園  
案内:植田光政氏/大乘院庭園文化館館長  
内田和伸氏/奈良文化財研究所遺跡整備研究室室長 ほか
- 14:30 名勝旧大乘院庭園 見学終了  
※徒歩にて移動
- 15:00 奈良公園高畑町裁判所跡地庭園 見学開始  
案内:篠田隆三氏/奈良県奈良公園室主幹  
仲 隆裕 関西支部長/京都造形芸術大学
- 16:30 奈良公園高畑町裁判所跡地庭園 見学終了、解散

第2日目(11/4 日) 研究発表会

会場 奈良文化財研究所内 大会議室  
奈良市二条町2-9-1【最寄駅:近鉄奈良線西大寺駅  
下車 徒歩15分】



- 9:10~12:00 研究発表会  
受付開始 9:10  
開 会 9:30
- 13:30~16:00公開シンポジウム「奈良の庭園をめぐる」  
基調報告1「発掘庭園の整備と再整備」  
和歌山大学教授 小野健吉氏  
基調報告2「奈良市における庭園総合調査(速報)」  
奈良文化財研究所 高橋知奈津氏
- コメンテーター 京都造形芸術大学教授 杉本宏氏  
司会進行 日本庭園学会関西支部長 仲隆裕

## ■参加費(2日間)

大会参加費：学会員・学生500円、非学会員1,000円  
 現地検討会参加費：1,000円(資料代含む)

## ■参加申し込み

当日、会場あるいは集合場所に直接お越しください。  
 事前申し込みがなくてもご参加いただけますが、会場準備の都合上、メールあるいはファクシミリで以下の項目について、11月1日(木)正午までに申し込んでください。なお、電話でのお問い合わせには対応できませんのでご了承ください。

- ① 参加者氏名 会員、非会員の別
- ② 当日連絡の取れる連絡先
- ③ 参加するプログラム  
 (現地検討会・研究発表会・公開シンポジウム)

連絡先：日本庭園学会関西支部事務局  
 ファクシミリ番号：075-791-9127  
 電子メール：naka@kuad.kyoto-art.ac.jp  
 (関西支部長仲隆裕)

## 研究発表会スケジュール

(9:30~9:55)

## 1. アート・マーケティング発想でみる日本庭園(2)

森 泰規

(株式会社博報堂ブランド・イノベーションデザイン局)

全国大会で報告した、日本在住の生活者1000名に対するインターネット調査のうち、当日未紹介の部分を引き続き報告する。基本的な認知・来訪実績・推奨意向、「積極保全&開示制限」、「積極活用&維持コスト利用者負担増」の条件とで対比させ、いずれを望むかの意見を把握している。今回は報告後に討議・意見交換の時間をできるだけ設けたい。

(9:55~10:20)

## 2. 四十五尺の滝と不動堂の調査

鈴木久男・吉村悠

(京都産業大学文化学部京都文化学科)

鹿苑寺境内で明らかにした、四十五尺の滝、導水路と水源についての調査と、隣接する不動堂に関する最近の調査成果について発表します。

(10:20~10:45)

## 3. 育徳園の現状と課題6 育徳園の橋と橋4の復元

原祐一(東京大学埋蔵文化財調査室)

育徳園には絵図、庭園図から4基の橋があったことが分かっている。石橋の橋1は明治時代以降の排水溝の暗渠化に伴い失われた。橋2、八つ橋の橋3は明治時代になって撤去された。橋4も撤去されていたが明治時代の写真には橋脚が写っていた。1993年の浚渫工事橋脚は失われたと考えていたが水位低下に伴い橋脚の橋脚が残っていることが確認された。橋脚の測量を行い橋の復元を行った。橋4の復元の行程を示し他の橋についても検討を行う。現在の東京大学本郷キャンパスは江戸時代の加賀藩江戸藩邸跡で中央に配置されている池は育徳園と呼ばれた庭園である。今年度、池が干上がり江戸時代の橋脚が現れたため簡易測量を行った。絵図と庭園図を検討した結果、江戸時代以降、橋の両端の園路が埋め立てによって園路の幅が広げられていた。また、池の西側崖部分で倒木があり、護岸の埋め立てを確認した。絵図と庭園図に描かれた橋と護岸、現在の状況について検討を行う。

(休憩)

(11:00～11:25)

#### 4. 廣誠院の築造と継承の検証

今江秀史(京都市文化市民局文化財保護課)

京都市中京区の押小路通木屋町に所在する廣誠院は、薩摩藩と明治政府で営繕に従事し、実業家となった伊集院兼常の別荘として明治25年(1892)から5年間の間に築造されたとみられる。その庭・建物は、伊集院から幾人かの手に渡り、廣瀬・北脇・伊庭三家の先祖の霊を祀る寺として存続されている。本研究発表では、史料に基づいて廣誠院の成立から継承の経緯を、近世後期における高瀬川の取水口付近の状況と共に解明し、その存続の意義を検証する。



廣誠院

(11:25～11:50)

#### 5. 長江家北棟庭園の発掘調査と整備

仲隆裕・杉本宏(京都造形芸術大学歴史遺産学科)

京都市下京区の船鉾町に位置する長江家は、職住一体の京都室町呉服卸商家の佇まいを伝える事例として平成17年に京都市有形文化財に指定されている。間口7間、奥行30間の敷地には、禁門の変(1864)での焼失後慶応4年(1868)に再建された北棟と、明治40年(1907)に建立された南棟が主要建築として建つ。しかしながら北棟は廊下・便所・浴室を撤去するなどの改修が施されていたことから、建築当初の姿へと復原されることとなった。庭園も北棟と同時に改修されていたものと考えられることから、実測調査並びに発掘調査を実施し、庭園遺構の変遷を考察した。その結果、庭園の地盤は焼土の埋め立て・整地であること、南側にあった廊下等の撤去後に庭園が拡張されていること、縁先手水鉢の台石が立石として残されていること、飛石が打ちかえられていること等が確認された。これら成果と史料調査に基づいて北棟庭園の修復整備を行ったのでその概要を報告する。



長江家

#### 【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：中野理香・小椋菜美（植彌加藤造園株式会社）

#### 日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター一付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342